



Members

- associate prof. Aya Kubota
- Taku Nohara
- senior assistant prof. Setsuji Nagase
- assistant prof. Yu Okamura
- Takefumi Kurose
- visiting scholar Akiko Tanaka
- D2 Tomoko Mori
- Kosuke Kambara
- M1 Takuya Hagiwara
- Kaori Fukushi

大槌プロジェクトの取り組み

2011年3月11日の東日本大震災後、都市デザイン研究室では東大海洋研のあった大槌町赤浜で集落の被災状況等に関する調査活動を開始。その後2011年度は、大槌町を知ること、復興への示唆を得ることを目的に町の文化資源を調査・整理し、ヒアリングや写真からまちの記憶を掘り起こした。2012年度も文化資源調査を行うとともに、より詳細に震災前の生活風景を浮かび上がらせるためにヒアリング等を行い、加えて震災時の避難行動の調査を行った。



▲大槌町沿岸部マップ

2012年度の活動

- 5月 現地調査
- 8月 吉里吉里思い出サロン
吉里吉里例大祭調査
- 12月～ 赤浜集落避難行動調査
- 2月 黒森神楽調査
- 3月 避難行動調査冊子発行

文化資源調査

2011年度から町に根付いてきた祭礼や伝統芸能、漁業文化、湧水のある暮らし等を調査・記録してきた。これらの調査は震災によって消えかかった町の文化の記録となるだけでなく、例えばまちなかでの祭礼や芸能と結びついた広場の計画や湧水や漁業資源を生かした新しい産業づくりの手助けとなり、大槌町らしい空間づくりや集落再生に繋がると考えている。

海上調査

漁船に乗り込み、会場から各集落の地形的特徴や漁師が目印とする岩場や遠景の山地等の様子を調査をした。



▲磯浜の様子を観察

黒森神楽調査

岩手県沿岸を巡業する「廻り神楽」の一つである黒森神楽についての調査。漁業文化との結び付きが強い。



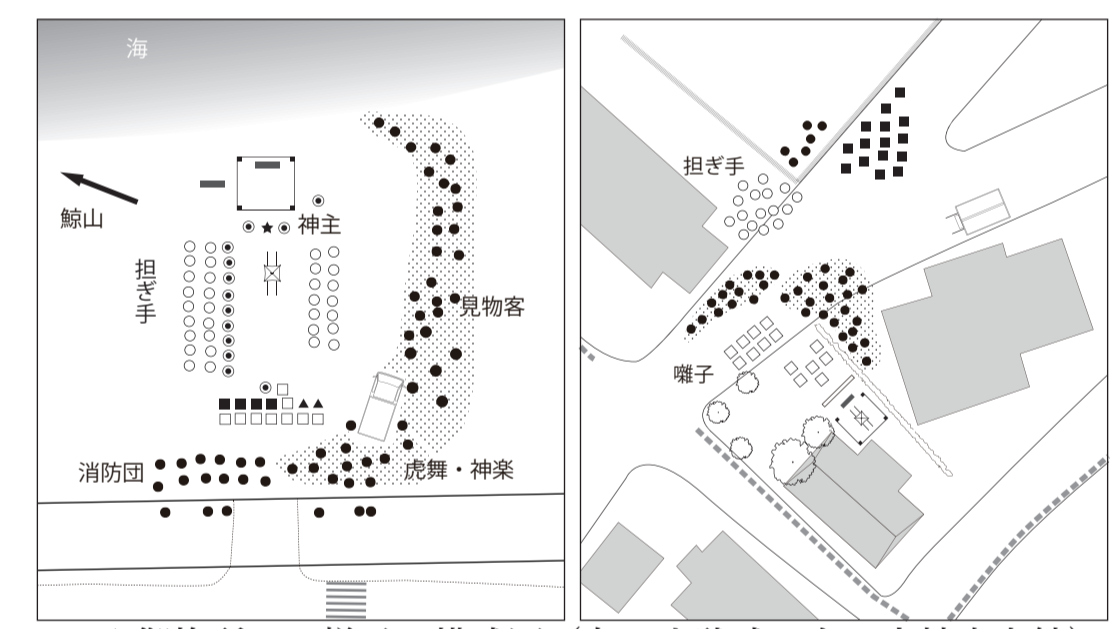
▲吉里吉里佐野邸での巡業

吉里吉里例大祭

吉里吉里集落の例大祭の調査を行った。震災後初めての神輿渡御の様子や虎舞・鹿子踊り等の伝統芸能の記録を行った。ハレの日の空間づくりに繋げていく事ができる。



▲宮入り直前の様子



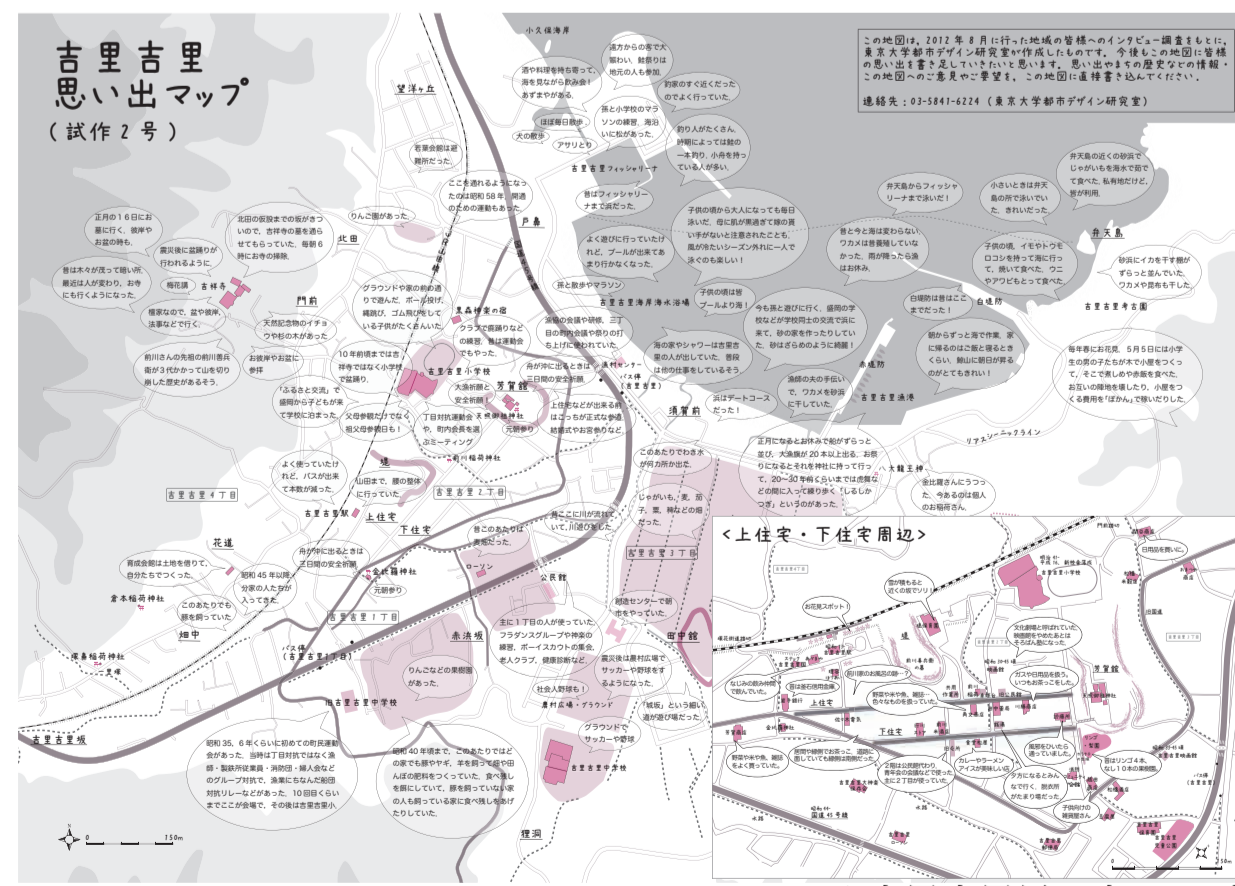
▲御旅所での様子の模式図 (左：大祓式、右：太神楽奉納)

吉里吉里思い出サロン／マップ

震災前、吉里吉里集落内ではどのような日常があったのかを明らかにするために、被災した店舗をお借りして「吉里吉里思い出サロン」を開くとともに、仮設住宅等も訪問し、人々が集っていた場所、漁業の様子、子どもたちの遊び場などをヒアリングした。集落内の公共施設や広場の使い方や、庭や縁側での「お茶っこ」の様子等について詳しくお話を聞くことができた。まちの記憶の共有を図って、これらの内容を基に「思い出マップ」を作成し、地元の方々にお渡ししている。



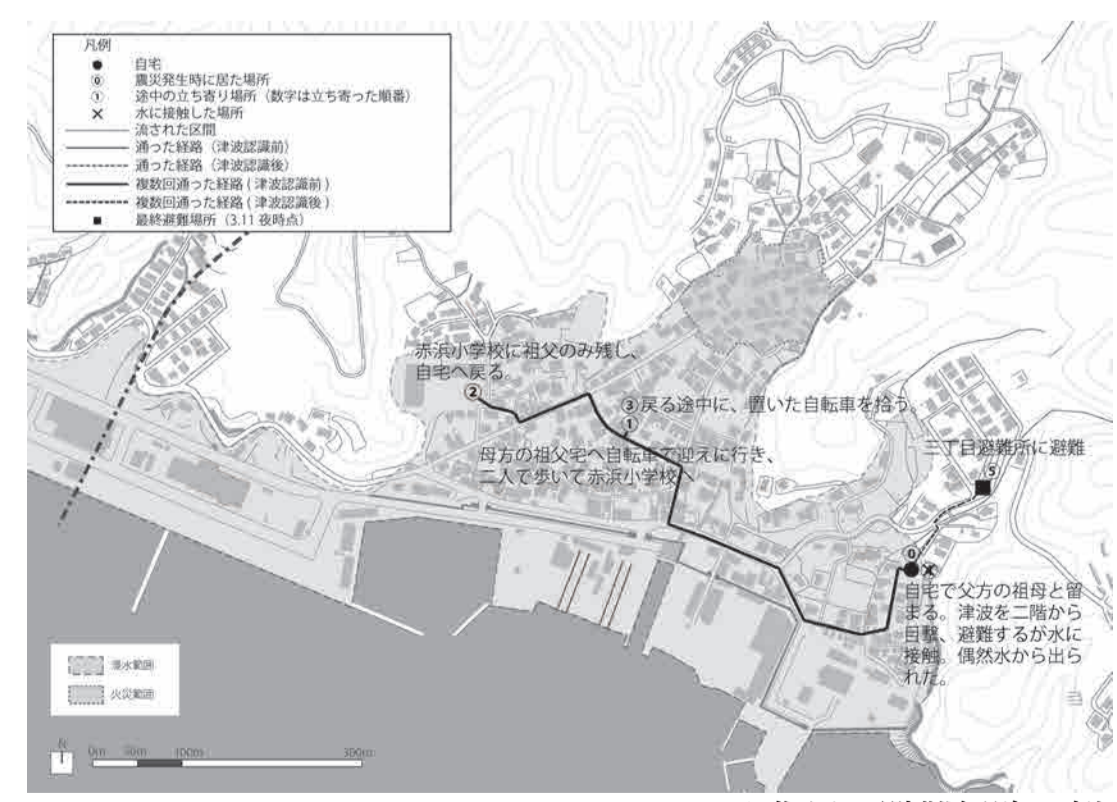
▲2012年8月に行った吉里吉里思い出サロンの様子



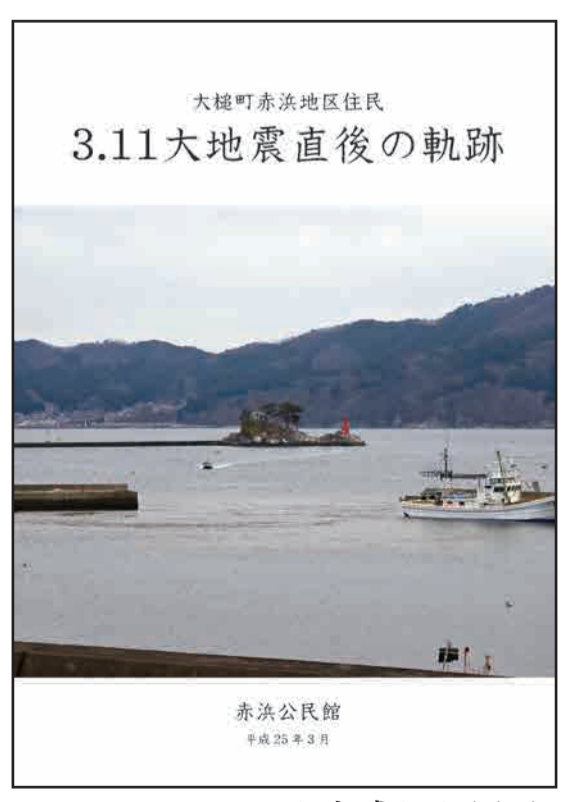
▲吉里吉里思い出マップ

赤浜集落避難行動調査

震災発生時、人々がどのように考え、どのような避難行動をとったのか、赤浜集落でヒアリング調査を行い、避難のきっかけとなる出来事や避難場所等についてまとめた。また、これとともに集まった避難行動の記録を赤浜集落の中での教訓として未来に受け継いでいきたいという地元の方々の思いをきっかけに、ヒアリングした内容を1冊の文集にまとめた。



▲住民の避難経路の例



▲完成した冊子

今後の活動に向けて

避難行動調査をもとに地域住民とともに、発災時にどのような行動をとるべきか学習する避難行動ワークショップを行ったり、まちの様子を伺ったヒアリングをもとに集落内の公共空間への考え方や民家の特徴等に関する知見をまとめ、復興計画の中で公共空間づくりや住宅再建時のヒントとしていくことができると考えている。